

池二小 サケを放流

池二小では昨年からサケの放流に取り組んでいます。これは体験学習の一貫として、サケの卵を孵化させ、数センチの大きさまで育ててから川に放流するものです。既に卵は孵化して小さな稚魚が水槽いっぱい泳いでいます。この稚魚を2月11日に、荒川に放流します。

荒川では最近サケの遡上が報告されています。昔にくらべてきれいになった荒川に、数年後に大きくなったサケが戻ってくることを願って、子供たちが放流します。興味のある方はごいっしょにどうぞ。

サケの放流

日時：平成9年2月11日（水）
場所：荒川河川敷

防災まちづくりの会
参加のよびかけ

災害時に「逃げないですむまちづくり」を合言葉に、池袋本町防災まちづくりの会が発足し、2年が経ちました。当会は町会、商店会の代表者と公募委員で構成されています。委員の任期は2年となっており、新たに公募委員を応募いたします。あなたも自分のアイデアや夢をまちづくりに生かしてみませんか。是非ご参加ください。

応募のきまり

- 参加資格・・・池袋本町にお住まいの方が営業している方、土地や建物をお持ちの営業している方
- 応募人員・・・15名程度
- 申込み方法・・・左のハガキに必要事項を書き込み、切手を貼らずに、そのまま郵送してください。
- 締切り・・・平成10年1月31日（土）
※応募者が多数の場合は、公正に選定させていただきます。

●町会、商店会から推薦していただいた方は、ハガキで応募いただく必要はありません。

問い合わせ先：（財）豊島区街づくり公社
☎(3981)1111 [内線] 2882

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区都市整備部地域整備課

編集協力：担当/石川・源田・村上
（株）エコライン
☎(5706)6031
担当/小野・吉川・曾田

池袋本町

防災まちづくり

ニュース

（忘れられない1月17日）

今年も1月17日がめぐってきました。3年前の今日、阪神・淡路地区を襲った大震災は、今も、灰塵と帰した街や倒壊した建物の映像として鮮明に蘇ってきます。また、いまだに続く仮設住宅暮らしからは、大震災はまだ終わっていないことを思い知らされます。

しかし、ともすると私たちの日常からは、1月17日とそれに続く長い日々は忘れ去られてしまいます。遠い日の遠い所の出来事のように思えるかもしれません。そう簡単に大地震は起こりそうもないし、起こったとしても自分だけは大丈夫。そう思っている人が多くはありませんか。

部会長登場

逃げ出さないまちづくりを ～ 道路部会 嶋原 紀寿 ～

池袋本町地域では、都市計画道路が計画されていますが、それは他の機会にゆずりたいと思います。

池袋第二小学校が救援センターに指定されているので、防災まちづくりの会は学校周辺の道路を防災重点道路と認識し、消防自動車が通過しやすい様に道路のすみきりが可能かどうか点検を行い、又、すみきり後に残されたままの電柱やポール等の移設や撤去についても検討してい



道路部会 嶋原 紀寿
(池袋本町二丁目在住)

ます。その結果1ヶ所のポールを移設することができました。さらに、歩行者が通行の際に支障となる電柱、NTT柱についても諸関係機関に移動の要請を行いました。

路上駐車、商品や看板のはみだし等、路上の障害物対策を行い、道路の有効利用について考えていきます。商店街が無くなると消防団、防犯、歳末警戒、祭礼等々地域活動に支障をきたします。災害時に逃げ出さないまちづくり

はもとより、商店街がシャッター通りにならないよう、活性化についても取り組んでいきたいと思っています。

Ikebukuro Honcho
Bousai-Machizukuri
News

no.9

池袋本町防災まちづくりの会
委員 応募 用 紙

●ご住所：（自宅・事務所・その他）○をつけて下さい。

池袋本町 丁目 番 号

●お名前：

●年 齢： 才 ●性 別： 男・女

●職業

●電話番号：（ ）

●まちづくりについてのご意見